



ずっと先まで、明るくしたい。



## 九州電力CSRダイジェスト

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY DIGEST

# 2014



## ずっと先まで、明るくしたい。

「快適で、そして環境にやさしい」

そんな毎日を子どもたちの未来につなげていきたい。

それが、私たち九州電力の思いです。

### 目次 CONTENTS

トップインタビュー	03
-----------	----

#### 特集

1 万一の災害時でも、 皆さまの暮らしを守るために	05
2 ずっと先まで、美しい地球を守るために	09
3 お客さまの声にお応えできる、 しなやかで強い会社となるために	13
思いでつなぐ九州の電気	15

#### CSRの取組み

九州電力グループのCSR	17
1 安全・安心を第一に考えます	18
2 社会とのコミュニケーションを大切にします	19
3 地域と協働してよりよい社会づくりに貢献します	20
4 環境にやさしい企業活動を目指します	21
5 人権を尊重し働きやすい職場をつくれます	22
6 コンプライアンス経営を推進します	23
CSR報告書2013アンケート結果	24
社外の方からの評価	25
編集方針	26

#### CSR (Corporate Social Responsibility) とは…

「企業の社会的責任」と訳され、企業の事業活動が及ぼす社会や環境への影響に対して、透明かつ倫理的な行動を通じて担う責任と説明されています。

企業は利益の追求のみならず、地球環境やお客さま、地域社会などにも配慮した事業活動を行う必要があるという考え方です。

# 九州電力の概要

(2014年3月末現在)

設立年月日	1951年5月1日
資本金	2,373億円
株主数	162,442名
供給地域	福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県
売上高	16,829億円
総資産額	42,180億円
従業員数	13,186名

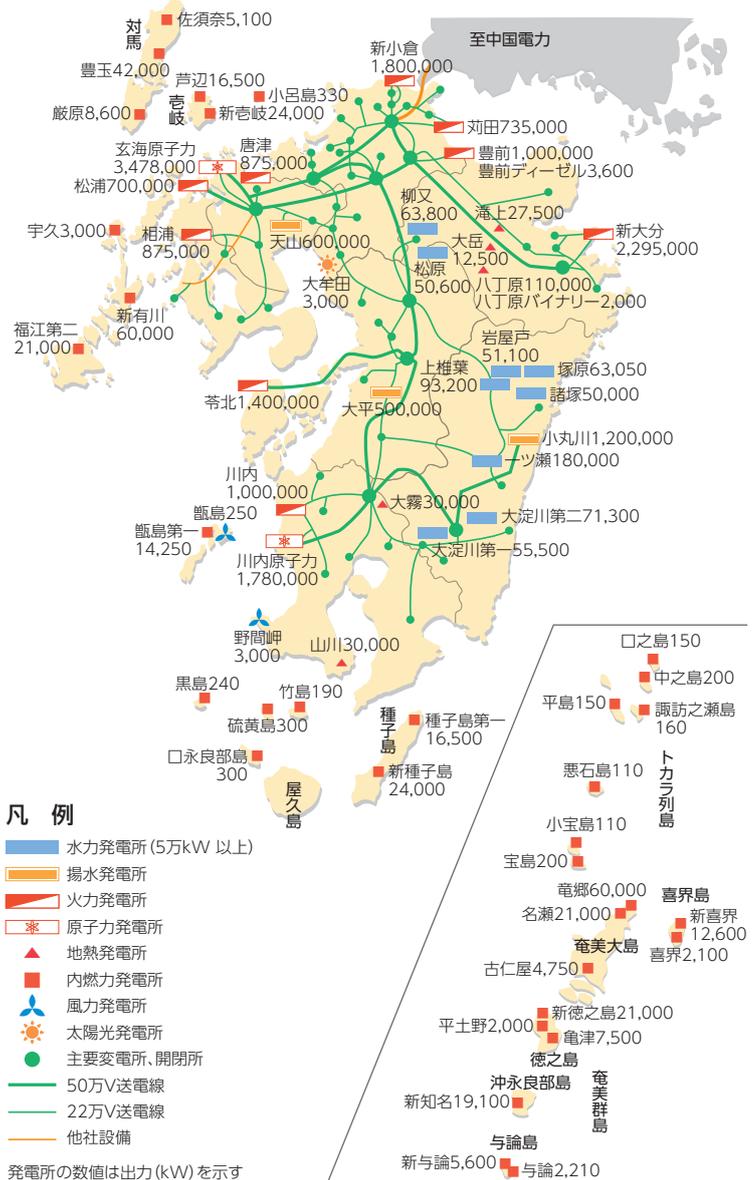
## 供給設備

水力発電	143か所	358.3万kW
火力発電	9か所	1,068.0万kW
地熱発電 (バイナリー含む)	6か所	21.2万kW
内燃力発電 (ガスタービン含む)	34か所	39.9万kW
原子力発電	2か所	525.8万kW
風力発電	2か所	0.3万kW
太陽光発電	1か所	0.3万kW
自社計	197か所	2,013.8万kW
他社計	—	276.0万kW
発電設備合計	—	2,289.8万kW

変電所	591か所	7,045.9万kVA
送電線路こう長	10,669km	
配電線路こう長	138,759km	

## お客さま数

電灯	779万口
電力	92万口
合計	871万口



# グループ会社一覧（一部抜粋）

(2014年3月末現在)

## 九州におけるエネルギー事業

<b>[電気の卸供給事業/エネルギー事業]</b> 戸畑共同火力(株) 大分共同火力(株) 大分エル・エヌ・ジー(株) 北九州エル・エヌ・ジー(株) 西日本環境エネルギー(株) (株)キューデン・エコソル* 長島ウインドヒル(株) (株)福岡エネルギーサービス みやざきバイオマスリサイクル(株) 他9社	<b>[設備の建設保守]</b> 九州林産(株) (株)九電ハイテック 西日本プラント工業(株) 九電産業(株) 西日本技術開発(株) (株)九電工 他7社
<b>海外におけるエネルギー事業</b> (株)キューデン・インターナショナル キューデン・インターナショナル・ネザランド キュウシュウ・エレクトリック・オーストラリア社 他15社	<b>[資機材等の調達]</b> 九電テクノシステムズ(株) 西日本空輸(株) 九州高圧コンクリート工業(株) 光洋電器工業(株) 他4社

## 情報通信事業

九州通信ネットワーク(株)	ニシム電子工業(株)
(株)キューデンインフォコム	九電ビジネスソリューションズ(株)
	他3社

## 環境・リサイクル事業

(株)ジェイ・リライツ	九州環境マネジメント(株)
-------------	---------------

## 生活サービス事業

(株)電気ビル	九電不動産(株)
(株)キューデン・グッドライフ	(株)九電オフィスパートナー
(株)キャピタル・キューデン	九州メンテナンス(株)
(株)九電ビジネスフロント	他13社

※2014年7月に(株)キューデン・エコソルを母体として設立される新会社「九電みらいエナジー(株)」に社名を変更 ▶11ページ



「ずっと先まで、明るくしたい。」

この思いを果たしていくため、信頼され選ばれる、しなやかで強い九州電力を目指します。

九州電力株式会社 代表取締役社長 **うりう みちあき**  
**瓜生 道明**

現在、原子力発電所が長期停止し、厳しい需給と収支状況が続いていますが、私たちは、いかなる経営環境においても、この思いを果たすため、お客さまとのコミュニケーションを大切に、事業活動を進めていきます。

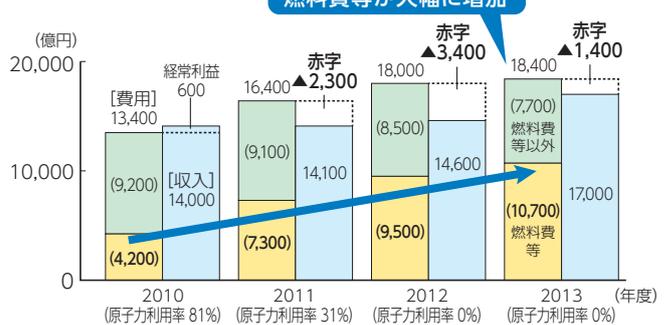
お客さまの生活や企業活動を支えるため、経営効率化にどう取り組んでいますか？

お客さまの生活や企業活動、地域社会を支え、皆さまとともに持続的に発展していくため、徹底した効率化とグループ一体となったコスト管理を行い、環境変化にもしっかりと対応できる収支構造の実現を図ります。

現在は、原子力発電所の停止により燃料費等が大幅に増加し、厳しい状況が続いています。そのため、燃料費等の削減に向けて、経済性の優れた高効率火力発電所の優先運転や、電力取引所を通じた安価な電力調達などに取り組んでいます。

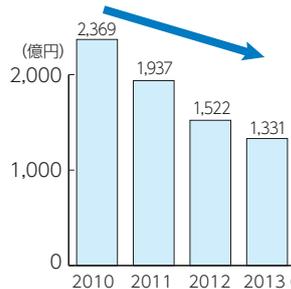
また、設備投資や修繕費、諸経費等については、安全確保や法令遵守、安定供給に細心の配慮を払いつつ、社外専門家の知見を活用した資機材調達コストの低減や、業務全般にわたる効率化などに取り組んでいます。

【収支の推移】



【設備投資の推移】

(原子力安全対策を除く、附帯事業を含む)



【修繕費、諸経費の推移】



## 2014年夏の厳しい需給状況を どう乗り越えていきますか？

電力を安定的にお届けすることが使命でありながら、今夏も、お客さまに節電のお願いをせざるを得ない状況に至ったことは、誠に忸怩たる思いです。お客さまには、ご不便とご迷惑をお掛けし、誠に申し訳ございませんが、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

当社としても、電力を確保する供給面と、電気の効率的利用の需要面、両面からあらゆる対策を行ってまいります。

### 【供給面の取組み】

- 火力・水力発電所の補修停止時期の調整
- 火力燃料の追加調達、緊急設置電源の活用
- 他社や電力取引市場からの電力調達 など

### 【需要面の取組み】

- エネルギーの効率的利用のご提案
- 需給状況のタイムリーな発信 など

## 原子力発電に対する不安の声もある中、 安全・安心のためにどう取り組んでいますか？

当面の安定供給に限らず、長期を見据えても、原子力発電は不可欠と考えます。日本は、エネルギー自給率が5%と極めて低く、今後の世界のエネルギー消費量の増加を踏まえると、安全確保を大前提として、原子力発電の活用が必要です。

当社は、福島第一原子力発電所の事故の教訓等を踏まえて施行された国の新規規制基準について、川内1・2号、玄海3・4号の適合性確認を申請しました。今後も、新規規制基準への的確な対応はもとより、更なる安全性・信頼性向上への取組みを自主的かつ継続的に進め、安全確保に万全を期します。

その取組みについて、皆さまにご理解・ご安心していただくことが何よりも重要なため、顔と顔を合わせた丁寧なご説明などを、全社一丸となってしっかりと行っています。

▶ 特集1 (5 ~ 8ページ)

## 再生可能エネルギーに対する社会の期待に、 どう応えていきますか？

国産エネルギーの有効活用や地球温暖化防止の観点から、これまで太陽光・風力・地熱・水力などの再生可能エネルギーを積極的に開発・導入してきました。2013年度末においては、お客さまの太陽光・風力の設備導入量は315万kWと、前年度の約2倍に増加しました。今後も円滑な受入れを図るとともに、電力品質の維持や、大量に普及した場合の技術開発に取り組みます。

なお、今年7月には、再生可能エネルギー全般を開発する新会社を設立し、お客さまの幅広いニーズにワンストップで対応するなど、より積極的に推進します。

▶ 特集2 (9 ~ 12ページ)

## 2016年の全面自由化に向けて、 お客さまから選ばれるために必要なことは？

これからの競争の中では、電気事業はサービス業であることを改めて認識し、変化するお客さまや社会のニーズに迅速かつ的確に対応し、時には先取りしていくことが重要となります。

そのため、お客さまのご意見をしっかりとお聴きし、お客さまからいただいた声を事業運営に的確に反映することや、組織風土改革と業務改革を全社一体となって推進していくことで、お客さまから信頼され選ばれる、しなやかで強い会社を目指していきます。

▶ 特集3 (13 ~ 14ページ)



当社は、皆さまとの双方向コミュニケーションツールとして、2006年より「九州電力CSR報告書」を発行してきました。報告書を通じ、取組みをお伝えするとともに、皆さまの声を事業運営に反映してまいります。

2014年6月



特集

1

# 万一の災害時でも、 皆さまの暮らしを守るために



## もしもの時に備え、 安全対策や訓練を行っています

当社の原子力発電所では、原子力規制委員会による新規制基準への適合性審査の対応として、さまざまな安全対策を実施しています。  
現在の川内原子力発電所の様子や安全対策の実施状況を皆さまにお伝えします。

### | 所員のモチベーションと緊張感

発電所の再稼働については先の見えない状態が続き、一時期は所員の士気にも影響していました。しかし、川内原子力発電所が原子力規制委員会での適合性審査書案作成の優先プラントとして選定され、ここまで進めることができました。

今は再稼働に向けて、全所員のモチベーションが高まっていると同時に、大きなプレッシャーも感じています。新規制基準で示した安全対策の具現化に向けて、安全・安心を第一に、より緊張感を持って業務に取り組んでいます。

### | ゆるぎない安全を目指して

2011年3月に福島第一原子力発電所の事故が起こり、さまざまな議論が巻き起こりました。それまで、本場に事故が起こり得るということを想定できていたのか、我々は深く自問しなければならぬと思います。

一方で、原子力発電所が長期にわたり停止したことで得た良い面もあります。それは会社や部署の枠組みを超えたチームワークが、より強固になったことです。先の見えない苦しい時期をともに乗り越えることで、互いに助け合う意識が生まれています。これは、日々の業務にだけでなく、万一事故が発生した場合でも、一致団結して「力」を發揮することができる土台になると思います。

### | 30を超えるシナリオを想定した日々の訓練

福島第一原子力発電所の事故を目の当たりにした今、我々はさまざまなシナリオを想定し、徹底した安全対策や訓練を日々行っています。燃料損傷防止や格納容器破損防止、放射性物質の拡散抑制など、そのシナリオは30を超えます。今後は新規制基準で整備された設備を含め、更に過酷な状況を想定したシナリオも増やしていく予定です。

協力会社を含めた発電所所員の一人ひとりが、安全対策の手順を覚え、いつ、どんな状況においても対応できるよう、繰り返し訓練を行っています。



川内原子力発電所長 藤原 伸彦 ふじわら のぶひこ

### 実施している訓練(例)

- ▶ 全交流動力電源喪失時の運転操作訓練
- ▶ 大容量空冷式発電機からの給電訓練
- ▶ 原子炉などを冷却するための給水訓練
- ▶ がれき撤去訓練 など

### 「目配り・気配り・思いやり」 所員のわずかな変化も見落とさない

どんなに設備を強化しようとも、安全を確保していくためには、それを取り扱う所員の五感が必要不可欠。そのため、所長として大切にしていることは、所員のわずかな変化も見落とさないことです。毎日、現場を巡回し、所員一人ひとりの顔色や雰囲気などに留意しています。

所員にとって「安全」とは、「当たり前」のこと。日々の業務の中で、その意識は心身に行き渡っています。その「当たり前」を遂行できるよう、当社と協力会社が一体となって、これからも原子力発電所の安全・安心のために取り組んでまいります。

原子力発電所の安全対策については、当社ホームページ上で動画などを使って、ご紹介しています。また、隣接する展示館は自由に見学ができますし、団体のお客様は発電所の構内にもご案内しています。私たちの安全に対する取り組みを知っていただくためにも、ぜひ多くの方々に見学に来ていただきたいと思います。

### 動画 玄海・川内原子力発電所の安全対策について

九州電力 原子力発電所 安全確保



# 原子力発電所では、さまざまな場合を想定し、幾重もの対策を講じています

当社の原子力発電所は、万一事故が発生した場合を想定し、大きな事故を食い止める手段を、幾重にも準備しています。これからも、万一事故が発生した場合でも、放射性物質の放出を防ぎ、人や周辺環境に影響を及ぼすことのないよう、安全対策や防災対策に万全を期していきます。

## 福島第一原子力発電所の事故を踏まえた幾重もの対策

それでも地震等で異常が発生した場合

### 第1段階

#### 異常の発生を防ぎます

将来的に発生する可能性が考えられる、最大の地震や津波、火山、竜巻などの自然災害が発生した場合でも、十分な強度をもった設計となっています。



海拔13mのタービン建屋



新設された防護壁

### 第2段階

#### 異常の拡大を防ぎます

外部から電力供給が途絶えた場合でも、発電所の安全性に必要な電源を確保できるよう大容量空冷式発電機等を設置し、電源供給訓練などを実施しています。



大容量空冷式発電機



電源供給訓練

それでも異常が事故に拡大した場合

### 第3段階

#### 燃料の損傷を防ぎます

原子炉の中にある燃料を冷却するため、もともとあった複数の冷却装置に加え、更にいくつもの冷却方法を追加し、その給水訓練などを実施しています。



移動式大容量ポンプ車



給水確保訓練

それでも燃料が損傷した場合

### 第4段階

#### 格納容器の破損を防ぎます

格納容器の破損を防ぐため、もともとあった複数の装置に加え、格納容器の冷却手段を増強したほか、燃料が損傷した際に発生する可能性のある水素を除去できる装置も設置しました。



水素再結合装置

それでも格納容器が破損した場合

### 第5段階

#### 放射性物質の放出を抑えます

格納容器の破損箇所へ放水し、周辺環境への放射性物質の放出を極力低く抑えるため、放水砲や移動式大容量ポンプ車を配備しました。



放水砲による放水試験

それでも放射性物質が放出された場合

### 第6段階

#### 放射性物質から皆さまを守ります

万一の際に、地域の皆さまの安全を確保するため、国や自治体とテレビ会議等を通じた情報共有システムなどが強化され、国や自治体との合同訓練を実施しています。



国主催の原子力総合防災訓練

# 原子力に関する疑問にお答えします

## Q 原子力発電は本当に必要なの？

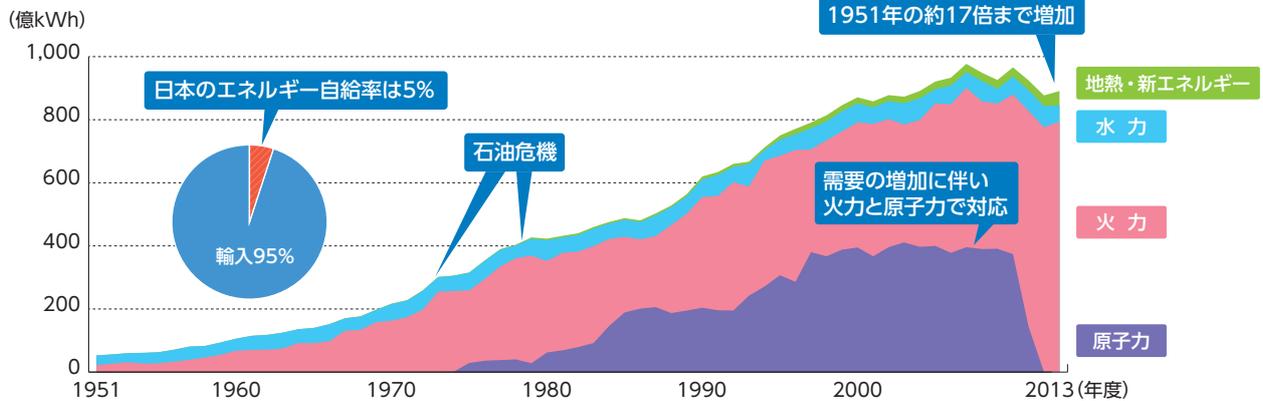
A 資源が少ない日本にとっては、重要な電源の一つだと考えています。

日本のエネルギー自給率はわずか5%。化石燃料を輸入しなければ、現在のエネルギーを産み出すことはできません。当社はこれまで、1950年代の水力中心の電源構成から、日本の経済成長に伴う電力需要の増加に対し、火力や原子力の電源を増やすことで、お客さまに電力をお届けしてきました。

2013年度は、全ての原子力発電所の停止に伴い、発電電力量に占める火力発電の割合が約9割を占めてお

り、著しく火力発電に偏った電源構成となっています。火力発電の燃料は、ほぼ全てを輸入に頼っており、このように偏った電源構成では、1970年代の石油危機時に経験した、電力供給制限や価格急騰のリスクもあります。そういった観点から、安全・安心の確保を前提とした原子力の利用も含め、火力や水力、地熱、太陽光、風力など、さまざまな電源をバランスよく利用していくことが大切だと考えています。

### 当社の発電電力量の推移



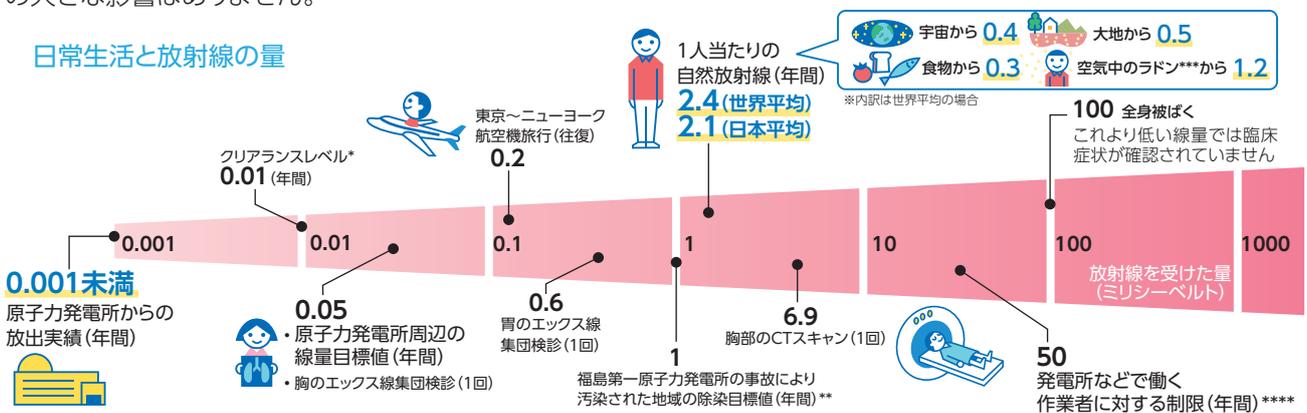
## Q 原子力発電所から放射性物質が出ているらしいけど大丈夫？

A 原子力発電所の運転に伴い、放射性物質は出ています。しかし、宇宙や大地などの自然から受けている放射線や、レントゲンなどで受ける放射線と比較すると、極めて微量です。

放射線は自然界にも普通に存在するもので、私たちは日常的に放射線を受けています(世界平均で年間2.4ミリシーベルト)。また、レントゲンなどの医療行為でも活用されており、過度に放射線を浴びない限り、身体への大きな影響はありません。

原子力発電所では、放射性物質をきちんと管理しているため、発電所周辺の人々が受ける放射線の量は、年間で約0.001ミリシーベルト未満と、自然界から受ける放射線の量を大きく下回っています。

### 日常生活と放射線の量



出典：電気事業連合会「放射線Q&A」、UNSCEAR2008report、資源エネルギー庁「原子力2010」、(公財)原子力安全研究協会「新版 生活環境放射線(国民線量の算定)」、環境省「除染情報サイト」をもとに作成



特集 **2**

ずっと先まで、  
美しい地球を守るために



## 九州における地熱発電は日本の約4割 今も更なる開発を進めています

### 創業当初から培ってきた地熱の技術

当社は、1950年代から地熱発電の調査、研究に着手して以来、多くの地熱発電を当社、グループ会社の一貫体制で開発してきました。そのことにより、地熱資源の探査・評価、地下資源の管理・運営、発電設備の保守・運営などに関する技術力を蓄積してきました。その結果、日本最大規模の八丁原発電所を含め、日本全体の約4割の地熱発電設備量を保有するなど、当社は地熱発電の開発に、積極的に取り組んできました。

### 今なお続く、地熱発電の開発

現在、国内初の事業用地熱発電所である大岳発電所（大分県九重町、1967年運転開始）の老朽化を踏まえ、2019年12月までに発電設備の更新を行い、出力2,000kWの増加を見込んでいます。（現在の出力は12,500kW）

## インドネシアでも 地熱発電プロジェクトを進めています

### インドネシアが持つアジア最大の地熱資源

当社は、2013年4月に、インドネシア国有の電力会社と、地熱発電による30年間の売電契約を締結しており、2016年に初号機、2018年に全号機（計約32万kW）の運転開始に向けて、現在準備を進めています。

地熱発電は地球の熱を利用して発電するため、地熱資源が豊富なインドネシアは、地熱発電に非常に適した国です。しかし、地下に眠る地熱資源は、目に見えるわけではなく、30年間にわたって安定した発電を続けるのは、非常に大変なことです。

### 当社グループの技術力を活かした地熱開発

地熱資源の管理が非常に難しい地熱発電では、当社グループに強みがあります。当社が国内で培ってきた地熱資源の開発から発電所の建設・運営に亘るノウハウと、西日本技術開発(株)が持つ世界的にも評価が高い地熱資源の評価・管理ノウハウです。今回のプロジェクトでは、双方のノウハウを活かし、建設・運転・保守管理を行っていきます。

地熱センター 統括グループ  
まえだ てるお  
前田 輝男



また、地熱資源が賦存する離島で地熱発電を行うことも想定し、海の近くにある山川発電所（鹿児島県指宿市）の構内で、小規模バイナリー発電設備（出力250kW）を設置し、実証試験を実施しています。（2012～2014年度）

### 地熱開発に不可欠な地域との共生

再生可能エネルギー普及促進の追い風を受け、各地で地熱発電への関心が高まっていますが、地熱開発を行うためには地域の皆さまのご理解が不可欠です。

これまで蓄積してきた高い技術力を活かしつつ、地域のニーズ等も踏まえながら、地域の方々と一体となった地熱開発を目指しています。

国際事業本部  
サルーラ・プロジェクトG  
もりやま だいどう  
森山 大道



### 現地スタッフとともに 地球規模での環境保全に貢献する

このプロジェクトでは、現地の事業会社に当社から数名の社員が既に出向しており、発電所の設計段階から携わっています。

今後、地熱井の掘削工事、および建設工事が本格化していきます。2018年の全号機の運転開始に向けて、工事中の安全はもとより、設備トラブルが起こらないよう、徹底した品質管理と工程管理を行っていくことが私たちの役割です。

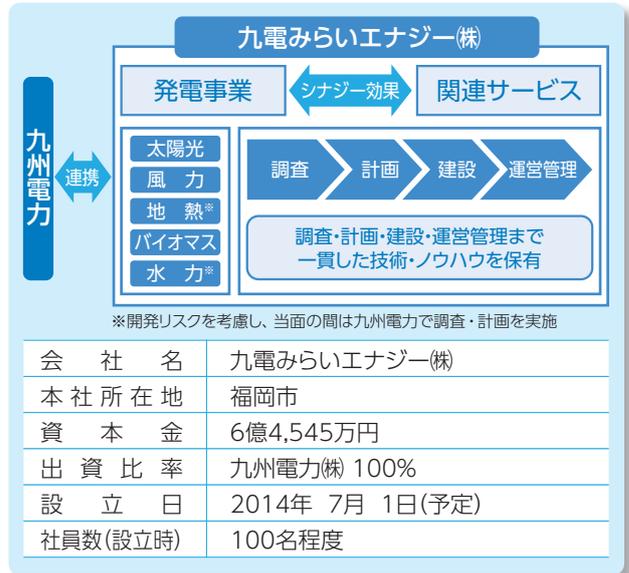
この世界最大規模の地熱発電プロジェクトを成功させ、地球温暖化防止へ寄与するとともに、現地スタッフへの技術力の継承ができればと思います。

## 再生可能エネルギー電源全般の開発を行う 新会社「九電みらいエナジー(株)」を設立します

当社は、再生可能エネルギーの開発・導入を更に加速するため、また、公共・産業分野等のお客さまからの幅広いニーズにワンストップで対応するため、当社グループ大での開発体制を強化し、再生可能エネルギー電源全般の開発を行う新会社「九電みらいエナジー(株)」を2014年7月に設立します。

新会社は、当社と連携のもと、地域社会に対し責任ある事業者として、再生可能エネルギーの普及拡大に努めます。そのため、太陽光や風力、地熱をはじめ、様々な再生可能エネルギー電源について調査・計画から建設・運営管理までの、一貫した技術・ノウハウを活用した発電事業を実施するとともに、関連するサービスもお客さまに提供します。

### 新会社の概要



## 自治体との協働による 再生可能エネルギー発電事業に取り組んでいます

### 大分県九重町における地熱バイナリー発電事業



九重町所有の地熱井における噴気試験の様子

大分県玖珠郡九重町では、町が菅原地区に所有する地熱井の有効活用策について当社と九重町が協働で検討・調査を実施してきました。その結果、有効性が確認できたことから、九重町が提供する地熱資源(蒸気・熱水)を利用した菅原バイナリー発電所(出力5,000kW)を建設し、2015年3月の運転開始を目指しています。(西日本環境エネルギー(株)より、九電みらいエナジー(株)が事業引継)

本事業は、自治体と企業が協働で取り組む、国内初の地熱開発事業となる予定です。

### 鹿児島県始良市における小水力発電事業

西技工業(株)は、鹿児島県始良市と小水力発電事業に関する協定を締結し、2015年6月の運転開始を目指しています。龍門滝発電所は始良市が所有する農業用水路を活用した発電所で、最大出力は約140kW、年間発電電力量は一般世帯約300戸分の電気を発電する予定です。

このほか、佐賀県鹿島市においても、佐賀県が所有する治水ダムの放流水を活用した小水力発電事業を当社・(株)九電工・西技工業(株)の3社で構成する連合体で行う予定です。



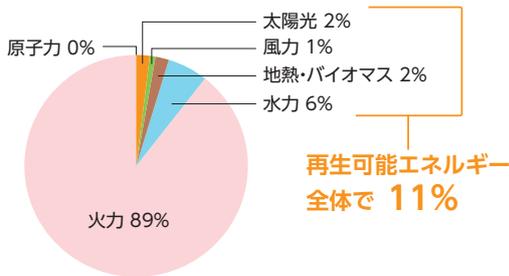
龍門滝発電所計画のイメージ

# 再生可能エネルギーに関する疑問にお答えします

## Q 再生可能エネルギーだけで電気をつくれないの？

A 現時点では困難です。再生可能エネルギーの設備導入量は、太陽光を中心に急速に増えていますが、太陽光や風力は出力が不安定で稼働率が低いことから、発電電力量は依然として低い状況です。

各電源の発電電力量における割合 (2013年度)



太陽光発電の設備量と発電電力量 (2013年度)

5年間で約7倍に急増

発電設備の量……………大型石炭火力約4基分 (272万kW)

しかし 発電した電気の量※……………大型石炭火力約0.6基分 (約29億kWh)

※2013年度末の発電設備量を元にした試算値

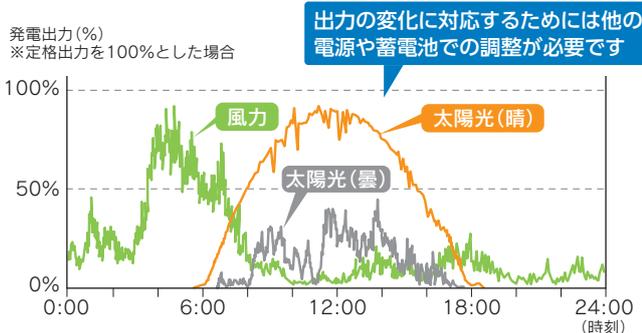
以下の理由により稼働率が低い

- ・夜間は全く発電できない
- ・天候に左右される

## Q 再生可能エネルギーの導入を増やしていくにはどうすればいいの？

A 太陽光や風力は、天候などに左右されやすく、出力が非常に不安定です。この出力の変化を補うためには、他の電源との調整や大容量の蓄電池などの技術開発が不可欠です。

太陽光と風力の1日の発電出力のイメージ



離島で蓄電池の実証試験に取り組んでいます

### 経済産業省補助事業

対象離島	壱岐(長崎県)	設置設備	リチウムイオン電池 (4,000kW)
実証期間	2012~2014年度		

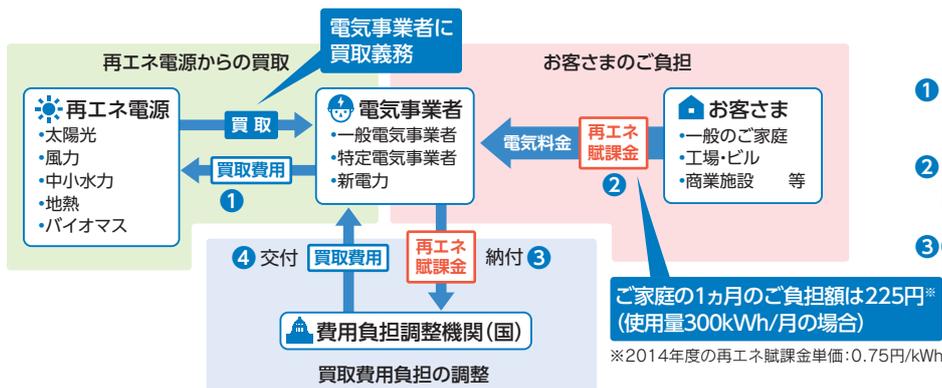
### 環境省補助事業

対象離島	対馬(長崎県)、種子島・奄美大島(鹿児島県)
実証期間	2013~2016年度
設置設備	リチウムイオン電池 対馬(3,500kW)、種子島(3,000kW)、奄美大島(2,000kW)

## Q 検針票に書いてある「再生エネ賦課金」って何？

A 再生可能エネルギー発電促進賦課金の略称で、再生エネによって発電された電気を電力会社が買い取る費用を、国の制度に基づき、電気料金の一部として、電気のご使用量に応じてお客さまにご負担いただくものです。

「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」のイメージ





## 特集 3

# お客様の声にお応えできる、 しなやかで強い会社となるために

## お客さまとのコミュニケーションを大切にしています

当社では、お客さまから幅広いご意見をお聴きできるよう、「お客さま対話活動」を推進しており、経営層による九州各県での対話の会や、社員がお客さま宅をご訪問する対話などを行っています。

このほか、「原子力の業務運営に係る点検・助言委員会」を設置し、原子力の業務運営に対して、客観的・専門的な立場から点検・助言をいただいています。

2013年度は、電気料金の値上げに関するご説明や、節電のお願いなど、様々な機会を捉え、多くのお客さまとコミュニケーションを行いました。

### お客さま対話活動(2013年度実績)

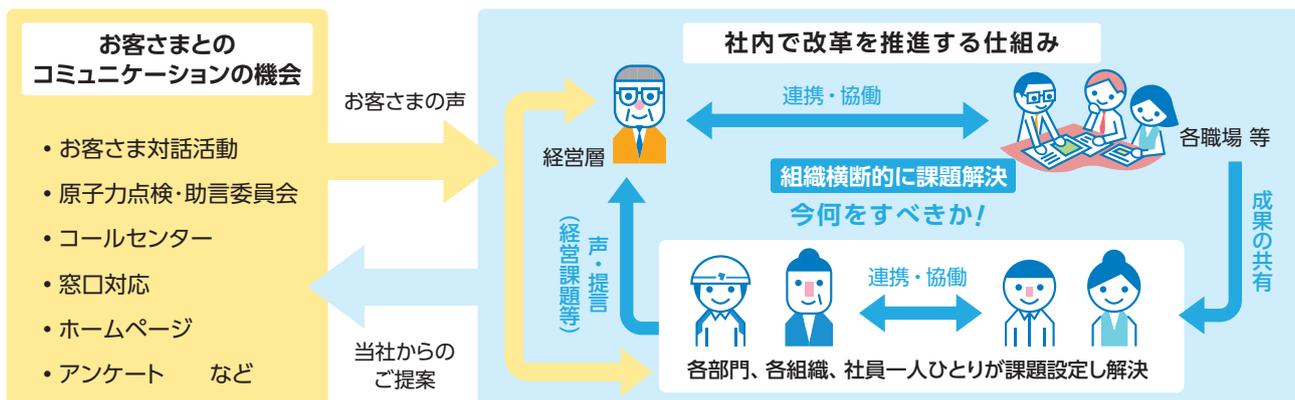
#### 社員による対話

全社で約11万名のお客さまとの対話を実施

#### 経営層による対話

各支社エリアで、10名(全社で80名)のお客さまとの対話を実施

### お客さまの声を反映していく仕組み



## 全社一丸となって組織風土改革と業務改革を推進しています

「しなやかで強い会社」となるための、あらゆる取組みの土台である組織風土改革と業務改革の推進に向けて、全従業員や経営層が参加する「みらいプロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトでは、経営層や各職場が、お客さまや社会の視点を持ち、主体的かつ自律的に、部門横断的な社内コミュニケーションを通じた活動を行っています。

### 職場や役職を越えた様々な社内コミュニケーション

職場や役職を越えた対話活動を展開し、本音で語り合うことで、相互理解を通じた価値観の共有や好事例の展開により、社員の意識改革や業務の改善改革につながっています。

また、社内ポータルサイトとして新たに構築した“つながるサイト”を活用し、各事業所における改革を有機的に結びつけ、各事業所における好事例の水平展開などに活用しています。

#### 各事業所での改善事例

年末のご挨拶の際にお渡ししていた童画カレンダーの廃止に伴い、事業所内での対話によって考案されたアイデア



長崎営業所  
「手づくりカレンダー」



“つながるサイト”を  
通じた情報共有



鳥栖営業所  
「似顔絵付き付箋紙」

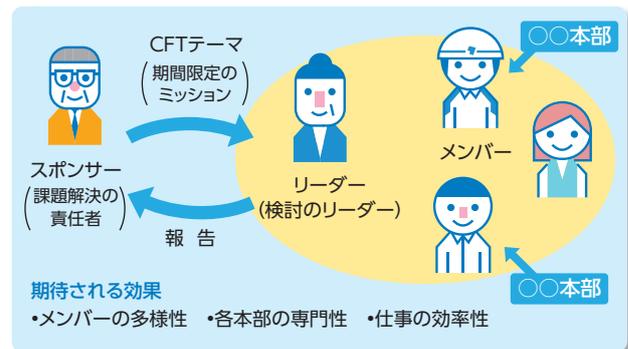
### 部門横断検討チーム(CFT)による 全社的な課題の検討

全社的な課題に対し、関連する組織に捉われない柔軟で多面的な発想を活かし、よりスピード感を持って対応するため、CFTを有効活用した課題検討に取り組んでいます。

#### 2013年度に検討したテーマ

- ①お客さまの声の把握と事業運営への反映の仕組みの強化
- ②社員の声の分析と事業運営への反映
- ③本店から現場まで、全社での円滑な情報共有の推進

#### CFT(クロス・ファンクショナル・チーム)のイメージ



## お客さまの声を事業運営に反映しました

いただいたお客さまの声を可能な限り事業運営に反映しています。今後もお客さまとのコミュニケーションの機会を大切に、お客さまの視点で事業運営に反映できるよう取り組んでいきます。

#### お客さまの声に基づく業務改善の事例

ホームページ(省エネ快適ライフ)で1日平均の電力使用量をグラフ化してほしい

これまでは、1ヶ月単位で月毎の電力使用量をグラフ化していましたが、月によっては使用日数が異なり、正確な比較が難しかったため、月毎の1日平均の電力使用量を見ることが出来るグラフを追加しました。

原子力発電所の安全対策などについて、分かりやすい動画を使って、YouTubeなどで配信してほしい

動画での配信については、当社ホームページ上で公開しましたが、今後もYouTubeを使った動画配信を含め、動画コンテンツの充実など、分かりやすい情報発信を検討していきます。

情報発信は、市民に分かりやすい内容とし、SNSなども活用してほしい

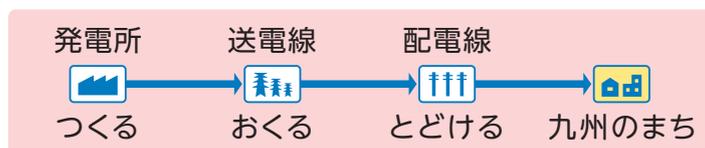
検針票裏面でイラストを多く用いるようにしたほか、エネルギーに関する情報を、グラフで簡潔に説明したデータブックをホームページに掲載しました。

また、Facebookページを開設し、社員の日々の取組みやお客さまの生活に役立つ情報、興味を持っていただける情報などを発信しています。

▶ 19ページ

# 思いでつなぐ九州の電気

私たちは「ずっと先まで、明るくしたい。」という九州電力の思いのもと、社員一人ひとりが何としてでも電気を安定的にお届けするという“思い”で、日々、業務に取り組んでいます。



## 自然の恵みを利用した 純国産エネルギーの源を守っています。



私は日向土木保修所が管理する13か所の水力発電所を定期的に訪れ、ダム of 巨大なコンクリート壁に異常がないか、貯水池周辺の護岸や山に異常がないかなどを、点検しています。

自然の恵みを利用し、純国産のエネルギーを産み出すこの大きなダムを“守る”という仕事に、私は大きなやりがいを感じています。ダムの管理には、私たちの技術や経験が不可欠です。先人から受け継いできたダムとともに、これらの技術や経験も若手社員に継承し、ずっと先までエネルギーを産み出すダムとして守っていけるよう、日々の業務に取り組んでいきます。



宮崎支社 技術部 日向土木保修所 ぶくだ みつり  
福田 満徳

## 長期間休まずに頑張った発電所を しっかりとメンテナンスしました。

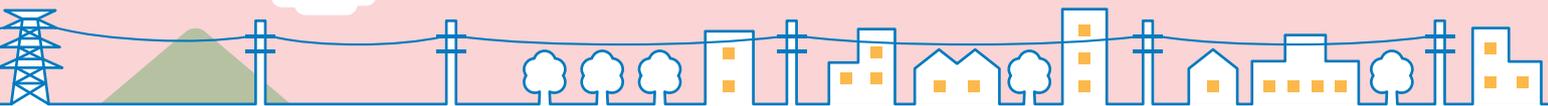


豊前発電所 保修グループ たじま けいじ  
田島 慶治

豊前発電所では、2013年9月～11月に、2号機の定期検査を実施しました。電力供給力の確保のため、定期検査を2年間繰り延べしていたことから、ボイラーは4年ぶり、タービンは6年ぶりの点検となりました。今回の点検では、これまで繰り延べしてきた詳細な点検を、限られた工期内で完了させることに大変苦慮しました。

今後も、このような点検による「トラブルの未然防止」やパトロール等による「設備異常の早期発見」、不具合発生時の「早期復旧」に全力を尽くすことで、発電所の安定運転に努めていきます。





## 「島のすべての灯りを、私たちが守っている」 この誇りが、トラブル一つひとつを防いでいます。



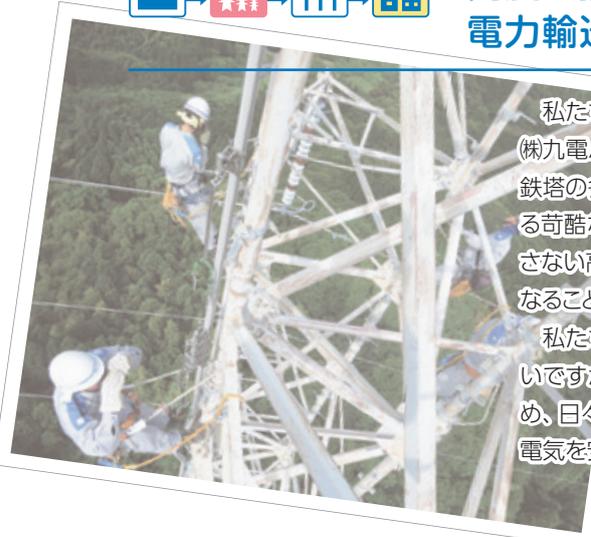
鹿児島内燃力センター 新与論発電所  
ふくだ ゆういち  
福田 裕一

与論島は、人口約5,400人の九州最南端の小さな島。新与論発電所の社員はわずか3名、委託先を含めても若干10数名の所員で、この島のすべての電気を、この発電所で作っています。

毎年台風が通るたびに停電することもあります。電気が復旧した時に島の皆さまからいただく感謝のお言葉は、私たちに誇りと責任感を感じさせてくれます。日頃からお付き合いしている、島の皆さまの暮らしを守るため、これからも、小さな不具合も見落とすことがないように、所員全員でこの島の灯りを守っていきます。



## 高度な技術力とチームワークで 電力輸送の大動脈を守っています。



私たちは電力輸送設備のメンテナンス業務を行っている(株)九電ハイテックで、送電鉄塔の点検を行っています。送電鉄塔の多くは、山間部や臨海部といった常に風雨にさらされる苛酷な自然環境下にあるため、小さな障害や劣化を見逃さない高度な技術力が求められます。また、高所での作業となることから、細心の注意とチームワークが重要になります。

私たちの仕事は普段はお客さまの目にとまることは少ないですが、若手とベテランが切磋琢磨しながら技術力を高め、日々の業務に誇りと責任をもって、九州のお客さまへ電気を安定してお届けできるよう取り組んでいます。



(株)九電ハイテック鹿児島支社 送電グループ  
まはら こうさく  
馬原 幸作  
おくの けいご  
奥野 圭吾



## 「早くお客さまに電気をお届けしたい」 どんなに雪が多くても、その思いは変わりませんでした。



三重営業所 設備保全グループ  
まえかわ けいすけ  
前川 慶介  
営業グループ  
ひらやま みゆき  
平山 美幸

2014年2月、大分・宮崎地区は大雪による倒木が原因で電線が断線し、三重営業所管内では大規模な停電が発生しました。

山間部では積雪や倒木によって道路が遮断された箇所も多く、復旧機材を担ぎ、膝まで積もった雪道を歩いて運搬するなど、とても大変な作業でした。

お客さまからもお問い合わせの電話を多数頂戴しましたが、復旧作業の状況を丁寧にお伝えするなど、お客さまに少しでも早くご安心いただけるよう、所員全員で思いを一つにし、お客さまに電気をお届けしました。



# 九州電カグループのCSR

私たちは、安全を最優先に電気を安定的かつ効率的にお客さまにお届けし続けることが、基本的使命であり、最大の社会的責任であるとの認識のもと、CSRに取り組んでいます。

九州電カグループでは、CSRの基本となる重点項目として、以下の6つのテーマで、様々な取組みを実施しています。

6つの重点項目	主な取組み内容
 <p><b>1 安全・安心を第一に考えます</b> (→ 18ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原子力発電所の安全確保</li> <li>● 電気工作物の保安確保</li> <li>● 作業災害防止対策の推進</li> <li>● 心身両面における健康管理の推進</li> <li>● 公衆災害の未然防止</li> </ul>
 <p><b>2 社会とのコミュニケーションを大切にします</b> (→ 19ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お客さまや社会の安心感・信頼感につながる広聴・広報活動の推進</li> <li>● 非常災害時・緊急時における広報対応の充実</li> <li>● 原子力関係情報の迅速・的確な発信</li> <li>● 株主・投資家のニーズを踏まえたIR活動の推進</li> </ul>
 <p><b>3 地域と協働してよりよい社会づくりに貢献します</b> (→ 20ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エネルギーや環境をテーマとした次世代層育成支援</li> <li>● ボランティア活動の一層の活性化に向けた環境づくり</li> <li>● 事業活動を通じた地域・社会の持続的発展への貢献</li> </ul>
 <p><b>4 環境にやさしい企業活動を目指します</b> (→ 21ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地球環境問題への取組み</li> <li>● 循環型社会形成への取組み</li> <li>● 地域環境の保全</li> <li>● 社会との協調</li> <li>● 環境管理の推進</li> </ul>
 <p><b>5 人権を尊重し働きやすい職場をつくります</b> (→ 22ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育・研修等を通じた人権尊重意識の向上</li> <li>● 働きがいのある生き生きとした職場づくりの推進</li> <li>● 多様な人材の活躍環境の整備</li> <li>● 従業員の能力向上と技術力の維持継承</li> </ul>
 <p><b>6 コンプライアンス経営を推進します</b> (→ 23ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育・研修等を通じたコンプライアンス意識の向上</li> <li>● 法務支援の充実による法的リスクの低減</li> <li>● 情報セキュリティ・個人情報保護管理の徹底</li> </ul>

詳しい情報は当社ホームページに掲載しています

九州電カ CSR

検索





## 火力発電所の安定運転に向けて 最大限の取組みを行っています

東日本大震災以降、原子力発電所が停止し、経年が進んでいる火力発電所についても高稼働となり、設備不具合のリスクは高まっています。

事故が発生しないよう安全を第一に考えるのはもちろんのこと、以下の取組みなどにより、安定運転に万全を期しています。

- 週末、祝祭日(年末年始、ゴールデンウィーク等)の電力需要が少ない日を利用した点検・補修
- 社員と協力会社が一体となったパトロールや運転状態監視の強化による設備異常の早期発見
- トラブル発生時の24時間体制による早期復旧



設備異常の早期発見パトロール(聴診棒による異音の確認)

## 新入社員に対する安全教育を徹底しています

新入社員教育では、「安全と健康に対する意識の形成、安全行動の習得」を目指し、感電・墜落・落下物・計器短絡などの危険体験を実施する「危険体験教育」や業務上災害を経験した当社OBによる「安全講話」、「業務上疾病予防講話」(熱中症等)、「健康管理講話」など、さまざまなカリキュラムを実施しています。

また、教育期間全体を通して、危険予知活動やヒヤリハット体験等の活動も行い、安全意識の更なる醸成に努め、安全と健康はすべてに優先することを意識させています。



危険体験教育(電力量計のショートによる発火実験)の様子

## 安全教育を通じて“現場力”を高めることが私の任務です

社員の思い



当社では、新入社員教育の中で安全教育を実施した後も、各支社において、入社2年目、5年目、10年目・・・と、継続した安全教育を行っています。講師である私は、現場において、一人ひとりが自律的に安全を実践できるよう、グループ討議による参加者同士の気づきを醸成しながら研修を行っています。

参加者とのコミュニケーションや研修後のアンケートなどにより、研修効果の確認や参加者のニーズの把握に努めながら、これからも、安全教育を通じた現場力の強化に取り組んでいきます。皆さん、ご安全に!!

福岡支社 人事労務部 のなか じゅんじ  
労務安全グループ 野中 純治



# 社会とのコミュニケーションを大切にします



## 原子力発電所の安全対策を 多くの方々に、実際にご覧いただいています

原子力発電所の安全対策の状況を実際にご覧いただくため、発電所周辺地域の皆さまを中心に、多くの方々に発電所構内の視察をご案内しました。

実際にご覧になられた方からは、「原子力は不要ではないか」や「訓練は繰り返し実施することが重要」などといったご意見のほか、「実際に見てみると大丈夫そう」といったご意見も多数いただきました。

今後とも、皆さまのご意見を真摯に受け止めながら、引き続き、丁寧にご説明していきます。



川内原子力発電所構内における地域の皆さまによる視察の様子

## Facebookやニュースレターを通じて、 タイムリーで顔が見える情報発信に努めています

2014年3月に公式Facebookページを開設し、社員の日々の取組みやお客さまの生活に役立つ情報、お客さまに興味を持っていただける情報などを発信しています。

また、同じく2014年3月から、各事業所での活動などを、ニュースレターとして地域の皆さまに向けて発信しています(6回/年程度を予定)。

その他、検針票の裏面を活用した情報発信にも取り組むなど、さまざまな媒体を用いて、効率的な情報発信に努めています。



公式Facebookページ

Facebookページは  
こちらから



ニュースレター

## 私たちの思いが込められたFacebookページを、 ぜひご覧ください

### 社員の思い

私たちFacebookチームでは、さまざまな情報を社内から収集し、皆さまから「いいね!」と共感していただける記事となるよう心がけています。異なるグループから結成されたチームであるため、最初は価値観の違いに戸惑う部分もありましたが、互いの得意分野でカバーし合いながら、日々の投稿記事を考えています。

Facebookはこれまでの情報発信と違い、「いいね!」や「コメント」で皆さまの反応が、すぐに返ってくる媒体です。これからも、皆さまの「いいね!」を励みに、思いを込めた情報をお届けしていきます。



地域共生本部  
総務計画・CSRグループ

てるやま たいち  
照山 太一

地域共生本部  
インターネット・社内報グループ

やまもと えいじ  
山本 英児

情報通信本部  
システム統括・事務系 I Tグループ

よしだ たつよし  
吉田 龍義



## 地域の皆さまと協働による 魅力あるまちづくりに取り組んでいます

当社は、福岡県うきは市に存在する伝統的建造物やつづら棚田、当社の水力発電所などを観光資源として活用する「浮羽まるごと博物館構想」に参画しています。これは、地域住民の皆さまが、この地域資源の価値を再認識し、観光ガイドなどのサービスを提供していく、地域住民主体のまちづくりです。

うきは市や九州大学などと共に、当社は民間企業としての視点を活かした支援をしていきます。なお、この取組みは、産官学民連携のモデル事業として、環境省や福岡県の助成を受けています。



地域の皆さまを交えたまちづくりワークショップの様子

## 当社グループ全体で ボランティア活動に取り組んでいます

福岡県八女市黒木町において、NPO法人 山村塾と協働で2012年7月に発生した九州北部豪雨災害の復旧ボランティア活動を、2012年度に引き続き実施しました。

当社及びグループ会社社員とその家族延べ82名が参加し、2013年9月・10月、2014年2月の3回にわたって、災害復旧ボランティア活動を行いました。九州北部豪雨災害の被災地では復旧作業が進められているものの、完全復旧にはまだ時間を要する状況にあることから、今後も活動を続けていきます。



棚田の畦及び水路の復旧作業

### NPO法人 山村塾事務局長 小森さんからのメッセージ



NPO法人 山村塾 小森 こうた  
事務局長 小森 耕太さん

2012年の九州北部豪雨災害では、山村塾の拠点のある笠原地区全体が、甚大な被害を受けました。復旧作業は進み、町は災害前の姿に戻りつつありますが、機械による作業が難しい棚田や水路などの復旧は、人手に頼らなければなりません。

九州電力グループの皆さんには、そのような人手での作業が必要な棚田や茶畑、林道側溝の復旧作業などにご尽力いただきました。どれも力のいる作業であり、慣れない作業で大変だったかと思いますが、おかげさまで予想以上に復旧作業が進み、一部は2014年から棚田米の作付けができるほどまで回復することができました。

今後は、棚田の復旧活動に加え、災害で耕作放棄された土地の維持管理を、ボランティアを募集しながら実施していく予定です。引き続き、笠原地区の復興へのご協力をお願いします。



## 環境にやさしい企業活動を目指します

電気の供給面と使用面の両面からCO<sub>2</sub>の排出抑制に努めています

当社は、事業活動に伴い発生するCO<sub>2</sub>や廃棄物など環境負荷の低減に努めています。

具体的には、発電時のCO<sub>2</sub>の排出抑制に向けて、安全の確保を前提とした原子力発電の活用、再生可能エネルギーの積極的な開発・導入、火力発電所の熱効率維持・向上、及び当社自らの節電・省エネ活動の徹底など、電気の供給面と使用面の両面から取り組んでいます。

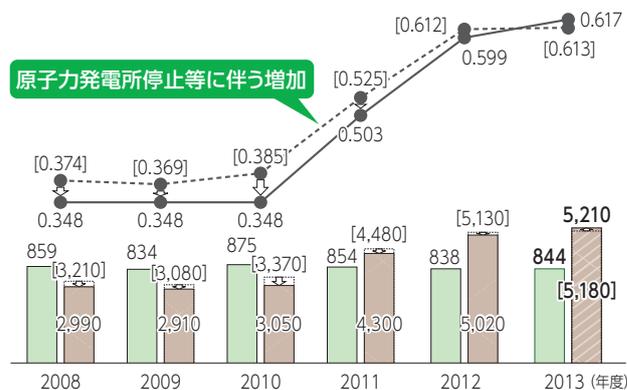
しかしながら、東日本大震災の発生以降、原子力発電所の運転停止が継続し、代替する火力発電量の大幅な増加により、CO<sub>2</sub>の排出量は増加しています。

2013年度のCO<sub>2</sub>排出量は5,210万トンとなり、販売電力量あたりのCO<sub>2</sub>排出量(CO<sub>2</sub>排出係数)は0.617Kg-CO<sub>2</sub>/kWh\*となりました。

\*暫定値であり、正式には「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、国が実績値を公表。

CO<sub>2</sub>排出量、販売電力量あたりのCO<sub>2</sub>排出量

● 販売電力量あたりのCO<sub>2</sub>排出量 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh)  
 □ 販売電力量 (億kWh) □ CO<sub>2</sub>排出量 (万トン-CO<sub>2</sub>)  
 [ ] 内はCO<sub>2</sub>排出クレジット及び固定価格買取制度(FIT)等を反映する前の値



注1：国が定めた「事業者別排出係数の算定方法」により算定。

注2：2013年度は、固定価格買取制度(FIT)の調整によるCO<sub>2</sub>排出量の増加分が、CO<sub>2</sub>排出クレジット取得による削減分よりも大きくなったため、CO<sub>2</sub>排出クレジット及びFIT等を反映する前の値を上回る結果となりました。

## 野焼きを行うことで

## 希少生物や美しい自然を守っています

坊ガツルは、大分県竹田市にある標高約1,200mに広がる湿原で、地元の方々が昔から牛の放牧のために野焼きを行い、湿原の保全をしてきました。しかし、高齢化などにより畜産農家が減少したことで、野焼きが行われなくなり、雑草が生い茂る原野と化していきました。

当社は、2000年に地元の方々と32年ぶりに野焼きを復活させ、毎年100人規模で実施しており、今では美しい湿原が保たれています。その成果などが認められ、2005年に国際的に重要な湿原としてラムサール条約に登録されました。



坊ガツルの野焼きの様子

地域の方と協働で復活させた野焼きは  
今では大分支社最大級のイベントになりました

## 社員の思い



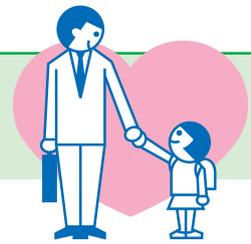
野焼きは、多くの参加者が必要であり、大変危険な作業ですが、大自然の中で身体を動かすと清々しく、無事に作業を終えた時に味わう達成感は忘れられません。

私は、地域との大切な接点の一つとして、この野焼きの事務局を担当しています。地域の皆さまと協力し、社員一人ひとりが活動に取り組む姿を通じて、九州電力を少しでも身近に感じてもらえれば嬉しく思います。

坊ガツルは希少植物も多く、こうして野焼きを行うことで自然を守ることができています。また、夏には美しい緑一面の湿原が広がり、訪れる多くの人を癒やしています。

大分支社 企画・総務部 いのうえ とおる  
 地域共生グループ 井上 徹

## 人権を尊重し働きやすい職場をつくります



### 仕事と子育ての両立を図る

#### 「子育てサポート企業」として認定されました

当社では、育児休業・短時間勤務などの両立支援制度の充実や、両立応援セミナー等での意識啓発など、子育て支援の取組みを進めています。

こうした取組みが評価され、2013年に「子育てサポート企業」として認定を受け、次世代認定マーク「くるみん」を取得しました。

今後も引き続き、両立支援制度を利用しやすい職場環境の整備などを通して、社員の働きがいや安心感の醸成、生き活きとした職場環境の構築に努めていきます。



「次世代育成支援対策推進法」に基づく  
厚生労働大臣認定マーク(愛称:「くるみん」)

### 障害者雇用促進法に基づく特例子会社として

#### (株)九州字幕放送共同制作センターを運営しています

聴覚に障がいのある方や高齢者など、テレビの音声が届き取りづらい方にも、テレビを楽しんでもらえるよう、字幕放送を普及させることを目的として、2004年に当社及び在福岡の民放5社などとの共同出資により、(株)九州字幕放送共同制作センターを設立しました。

字幕を制作するスタッフとして、障がい者の方を採用しており、当社の特例子会社として、障がいを持つ方々に働きがいのある職域を提供しています。



字幕放送番組(画面イメージ)

### 日々の字幕放送は、スタッフ同士の支え合いで作られています

#### 社員の思い

字幕放送は、聴覚に障がいのある方や高齢者の方だけでなく、一般の方にも、音声が聞き取りづらい状況でテレビを見るときに役立っています。近年では、災害時などにも利用されており、それだけに、文字や言葉遣い、文章表現については、高い技術が求められます。

私は通院しながら、この仕事をしていますが、会社のサポートはもちろん、スタッフ同士が支え合う、通院しやすい環境であることに感謝しています。分かりやすい字幕放送を、これからも皆さまにお届けできるよう、社会的意義の大きなこの仕事にやりがいを感じながら、取り組んでいきたいと思っております。

(株)九州字幕放送共同制作センター  
制作部

うおずみともひと  
魚住 朋史



# コンプライアンス経営を推進します



## 社外有識者が参加する委員会を中心として 当社グループ全体でコンプライアンス経営を推進しています

当社では、取締役会のもとに、社長を委員長としたコンプライアンス委員会を設置し、定期的を開催しています。委員会には、委員として社外有識者にも参加していただき、客観的な立場からコンプライアンス経営に関する助言等も受けています。

2013年度は、委員会での提言・審議などを踏まえ、法令違反などに関する事例集の作成や、当社グループにおける情報共有体制の強化など、当社グループ全体でのコンプライアンス違反事案発生防止に向けた取組みを実施しました。

### コンプライアンス委員会の概要

役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス経営に関する               <ul style="list-style-type: none"> <li>方針や対策等の提言・審議</li> <li>実施状況のモニタリング</li> </ul> </li> <li>社会的影響の大きい不祥事が発生した場合の社外有識者による助言 など</li> </ul>
構成	委員長：社長 委員：社外有識者(3名)、労働組合委員長、当社関係役員 監査役

### 2013年度の主な審議・報告事項

- 不祥事案の概要及び再発防止策
- コンプライアンス推進における課題と今後の取組み
- コンプライアンス相談窓口の運用状況
- 九州電力グループ従業員に対するアンケートによる意識調査結果

## 飲酒運転などをテーマとした 講演会や研修を実施しています

当社では、毎年1月を「コンプライアンス推進月間」と位置づけ、様々な取組みを全社で実施しています。

2013年度は「飲酒運転の根絶」を全社統一の重点テーマとし、飲酒運転事故の被害者遺族の方(福岡県飲酒運転撲滅活動アドバイザー)に、実体験に基づいた飲酒運転根絶への思いについて、講演していただきました。

また、万一懲戒処分を受けた場合、どのような環境変化が起こるのかを考えさせるなど、社員それぞれがコンプライアンスを自分自身の問題として捉えることができるよう、様々な研修も実施しています。



飲酒運転をテーマとしたコンプライアンス研修の様子

### 「同じ場面に遭遇したらどうするか」

### 自分の事としてコンプライアンスを考えることができました

コンプライアンス研修では、他部門の方も含めた少人数の班に分かれ、用意された複数の事例に沿って、コンプライアンス上問題となる行為はないか、正しい対応とはどうだったのか、班で議論しました。

用意されていた事例は、実際に起こりうるような事例ばかりで、「同じような場面に遭遇した場合に、自分がきちんと対応できるか?」と、他人事ではなく、身近な事として真剣に考え、危機感を持つ良い機会となりました。また、班の他の参加者には、自分とは違う視点で、違うリスクに着目している方も多く、多様な価値観に気づくこともできました。

地域共生本部 まつぎき あやこ  
事業法務グループ 松崎 文子



# CSR報告書2013アンケート結果

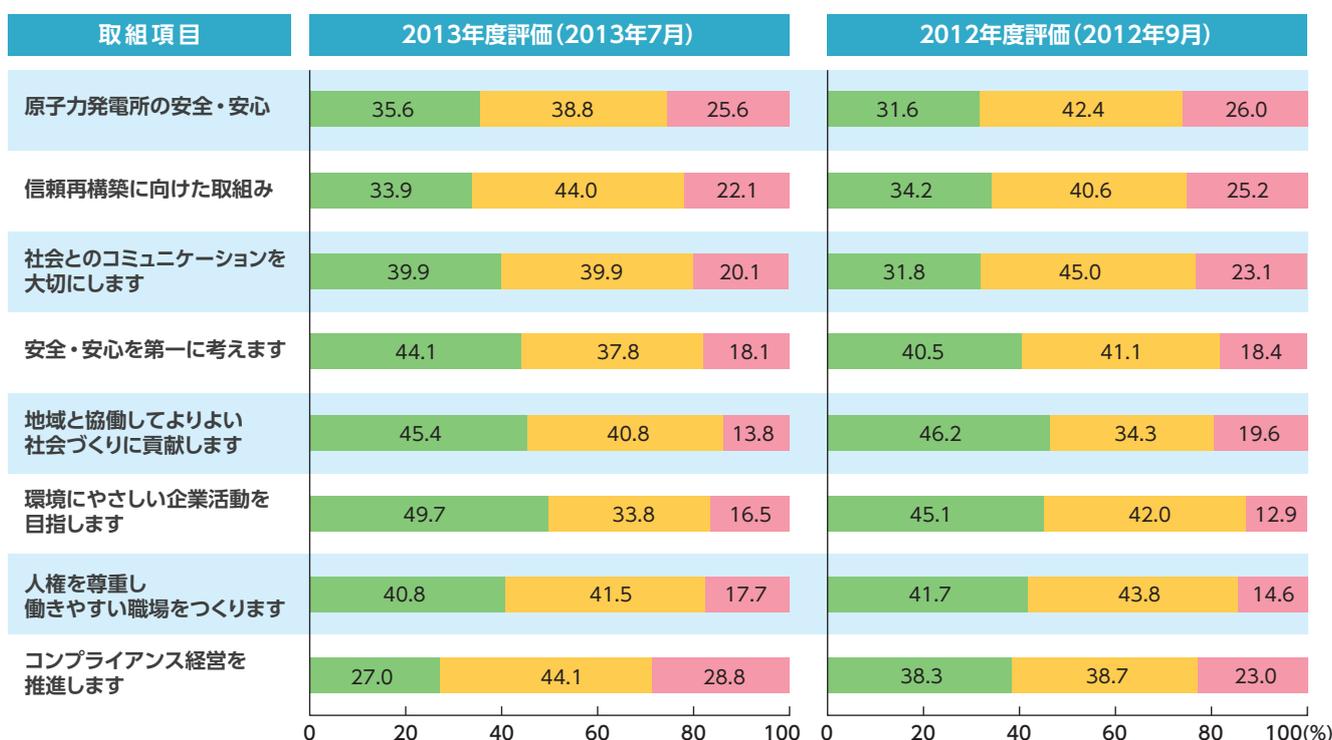
当社では、CSR報告書アンケート調査を通じ、皆さまからいただいた「声」を事業運営にとり入れています。2013年7月に行ったアンケート結果では、「社会とのコミュニケーション」など、若干改善が見られる項目はあるものの、全体的には依然として「どちらともいえない」との回答が多く、大きな改善は見られませんでした。このアンケート結果を踏まえ、今後ともCSRの取組みを更に充実し、改善を図っていきます。（今回も、巻頭にCSRダイジェスト用の簡単なアンケートを添付しておりますので、皆さまの「声」をお聴かせください。）

## アンケート概要

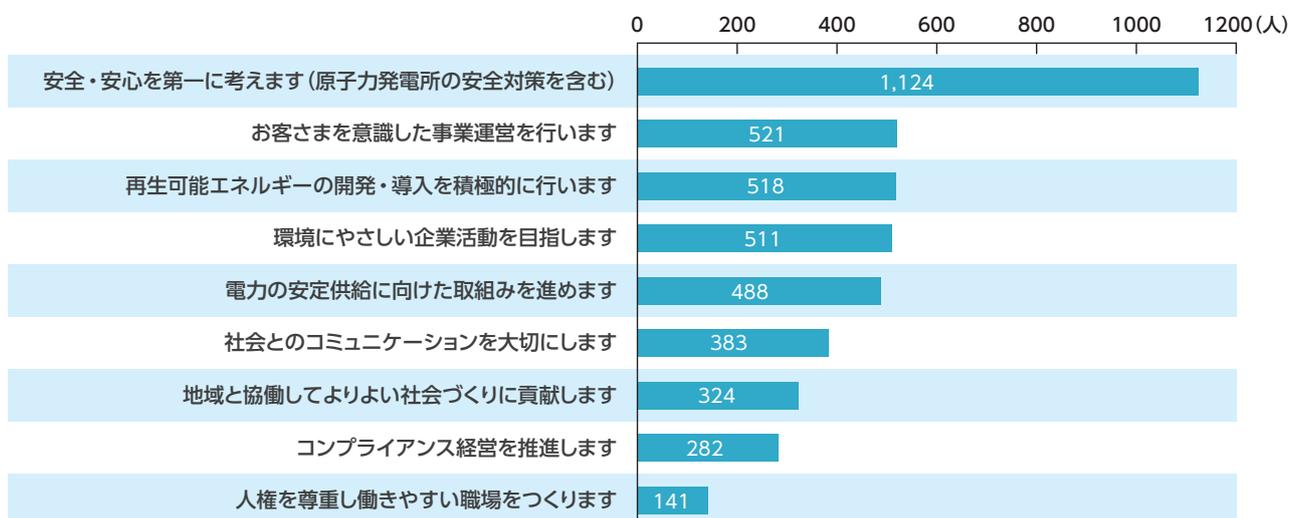
調査期間：2013年7月4日～7月16日 調査対象：九州在住の18歳以上の方 件数：1,440件

### 1 取組み内容に関する評価

■ 大変評価できる、評価できる
 ■ どちらともいえない
 ■ あまり評価できない、全く評価できない



### 2 CSRを推進していく上で重要だと思うテーマ(複数選択:3つまで)



# 社外の方からの評価

## 第三者意見 「CSR報告書2014」(当社ホームページで公開)に対する意見

### 内外で、「心・技・体」あるコミュニケーションを

巻頭からの章立て順の通り、メッセージ性を打ち出さんとしており、「6つの重点テーマ」も、社会的責任に関する国際的な考え方(ISO26000)に照らしても、程よく打ち立てられている印象です。かつ報告書の前半で組織横断的に推進する「CSRマネジメント」の進捗に触れている点、これを上位のものとして重視する姿勢がうかがえます。また、多様な職域にある社員の声も顔写真付きで掲載されており、熱意をも帯びた体裁となっています。

取組み面では、対話活動はもとより、組織風土と業務改革のための「みらいプロジェクト」による内部での部署横断的な機会づくりは、他の変革志向の組織の参考ともなる意義深いものでしょう。一方、気がかりな点もみられます。

#### 【心】 ～現在に加え、未来を見つめる心も～

CSR報告書は、進捗状況のほか、達成度と課題の検証、そして次なる行動目標を示す役割もあります。本報告書は、「これに取り組んでいます。」という現状のみで、課題設定や行動目標が見えません。電力会社は、人々の生活や産業を支える公共性の高い業種である点、外からの期待も高いため、「そこで、このように取り組もうとしています。」と未来形も示してください。

#### 【技】 ～とりくみ方、みせ方の工夫を～

CSR経営と不可分なPDCAサイクル(計画→実施→検証→改善)について、例えば、本報告書の「環境にやさしい企業活動」などを見るに、時系列の図表が2013年度止まりです。取組みの質の向上を図ることや、多くの方に取組みを理解して

もらうために、PDCAに基づいた報告内容にしてください。

次に、情報提供について。日々、停電や事故などの緊急性の高い情報からイベント情報に至るまで、幅広く扱っているようですが、一般的な情報取得手段は検針票かマスクミカ…でしょう。ホームページやSNSも、閲覧はITユーザに限られ、情報の掲載場所の分かりやすさやユニバーサル性(多くの人にとっての利用しやすさ)も途上との印象です。オンデマンド(ニーズに即した提供)が容易となるよう、情報の仕分けと、その種別に応じた多様な媒体の組み合わせの工夫を講じてください。

#### 【体】 ～双方向のコミュニケーションの実践を～

数年来展開中の各地での対話活動では、「このようにしています。」といった一方的な説明に留まっていませんか。しかと耳を傾け、時に情報や知恵を請う姿勢がないと、双方向性は生まれません。全社共通のミッションの下、「わたしたちはこのように考えるが、あなたの考えを知りたい。」という姿勢で、双方向のコミュニケーションを図れば、内外の納得感が高まるでしょう。誰のため・何のための対話活動か、社員の腑に落とすよう、上層部や管理職が常々強く意識することが重要です。

特定非営利活動法人  
ふくおかNPOセンター 代表

こが ももこ  
古賀 桃子 氏



## 第三者意見を受けて

CSR報告書の信頼性を高めることや、今後の取組みを強化するため、ふくおかNPOセンターの古賀代表に客観的な立場からご意見をお願いしました。

当社は、中期経営方針に掲げる目指す姿(しなやかで強い企業)に向けて、CSRを含む事業活動全般において、PDCAサイクルに基づき進捗管理を行っています。本報告書は、年次の活動報告として、前年度実績を中心に掲載していますが、いただいたご意見を踏まえ、今後の取組み課題や方向性等についても可能な限りお示しし、当社の社会的責任を果たしてまいります。

また、「情報提供」と「対話活動」につきましては、まさに、現在、重要な取組みとして進めていますので、いただいたご意見も参考にして、しっかりと実行に移し、お客さまから信頼され、選ばれる企業を目指してまいります。



九州電力株式会社  
代表取締役副社長 CSR担当

ちんぜい まさなお  
鎮西 正直

## 情報開示

### CSR全般に関する詳細報告

Webのみ



CSR報告書 [128ページ]

### 環境に関する詳細報告

冊子  
Web



環境アクションレポート [52ページ]

### 当社事業に関するデータ集

Webのみ

データブック※  
[83ページ]

※2014年版については2014年7月末に発行予定



## コミュニケーションツール

冊子  
Web



CSRダイジェスト [26ページ]

小冊子  
Web



CSRブックレット [15ページ]

九州電力 CSR

検索



これらの報告書は、全て当社ホームページ上に掲載しています。

本ダイジェストで興味をもたれた項目がありましたら、当社ホームページからご覧ください。

冊子を発行しているダイジェスト及びブックレットについては、資料請求も当社ホームページで受け付けています。

## 編集方針

### このCSRダイジェストは、お客さまとのコミュニケーションを深めるために発行しています

お客さまとのコミュニケーションツールとしてCSRダイジェスト2014を発行しました。

お客さまとのコミュニケーションやアンケートなどを通じて、お客さまからいただいた「声」を、当社グループの事業運営に反映させていきます。

### お客さまの関心や期待、及び当社の重点取組みをもとに掲載項目を選定しています

2013年度のアンケート調査で、お客さまが重要と考えておられる項目として、「原子力発電所の安全・安心への取組み」「再生可能エネルギーの積極的な開発・導入」「お客さまの声を意識した事業運営」の3項目を特集として掲載しました。

なお、CSRの様々な取組みについては、6つの重点項目として整理し、主なものを紹介しています。 ▶ 24ページ

### 学生の方々と意見交換を行うなど、読者の皆さまに伝わるよう心がけました

当社は、お客さまから「当社の発信する情報は分かりにくい」との声を頻繁にいただきます。そのため、昨年度からCSR報告書の作成過程において、大学生の方々と数回にわたって意見交換を行うなど、読者の皆さまに「伝わる」よう心がけています。

今年度についても、九州大学の学生の方々と一般のお客さま方と、当社のコミュニケーション全般も含めて、意見交換をさせていただきます。



意見交換会の様子

報告範囲	九州電力株式会社及びグループ会社
報告期間	2013年4月1日～2014年3月31日 (一部対象期間外の情報も掲載しています)
発行時期	2014年6月(前回:2013年6月/次回:2015年6月予定)

### 免責事項

本報告書には、九州電力株式会社及びグループ会社の過去と現在の事実だけではなく、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。

ずっと先まで、明るくしたい。



Kyushu Environmental Management Corporation  
九州電力グループで発生・回収した古紙を利用し、再生した用紙を活用しています。



このパンフレットは、環境にやさしい植物油インキを使用しています。

■作成部署・お問い合わせ先

九州電力株式会社 地域共生本部 総務計画・CSRグループ

〒810-8720 福岡市中央区渡辺通 2-1-82

TEL : 092-726-1596 FAX : 092-711-0357

E-mail : [csr@kyuden.co.jp](mailto:csr@kyuden.co.jp)